

若手対象の研修プログラム開講



自社の働き方改革などについて説明する佐野社長（右）

みえ地域同期研修M-CAMP実行委

三重県内企業に所属する若手社員を対象とした社員育成プログラム「三重県地域同期研修 M-CAMP」(みえ地域同期研修M-CAMP実行委員会主催)が10月31日に開講した。業種や企業の枠を超えて集まった同世代が、チームでの対話や協働を通じ、考える力、伝える力、行動する力の三つの力を養うことを目指す。通常では接点を持つのが難しい他社の若手社員との交流を通じ、「地域同期」のつながりが生まれる

ことで、社会人としての視野が広がり自己成長が期待できる。同プログラムは、一般社団法人わくわくスイッチサポートセンター(津市)、組織彩工房(同)の3社が運営。昨年初めて実施し、第1期生は10社14人が参加。今回は第2期生として、幅広い業種の県内企業11社24人が参加した。

来月2月にかけて全5回開催する。初回は、四日市事務機センター(本社四日市)を会場に、オリエンテーションと題して参加者による自己紹介や目標を設定した。また、四日市事務機センターの佐野智成社長が、自社で取り組んでいる働き方改革や働きやすい職場環境作りについて紹介。終了後、佐野社長は「若い方々は、他の会社の人と交流する場面が少ない。交流の場を提供することができてうれしい」と話した。2回目以降は、県内企業や三重大学を会場に、企業見学やワークショップ、グループワークなどを行う。最終日には学んだことや今後の目標について、自社の経営者や上司の前で発表する。(四日市)

業種・企業の枠超え24人参加

